

〔 1997年度採集観察会 〕

場 所：千葉県船橋市 「船橋県民の森」

第4回 2月22日(日) 雨天決行!!! + 雷でも行きます!

(最終回)

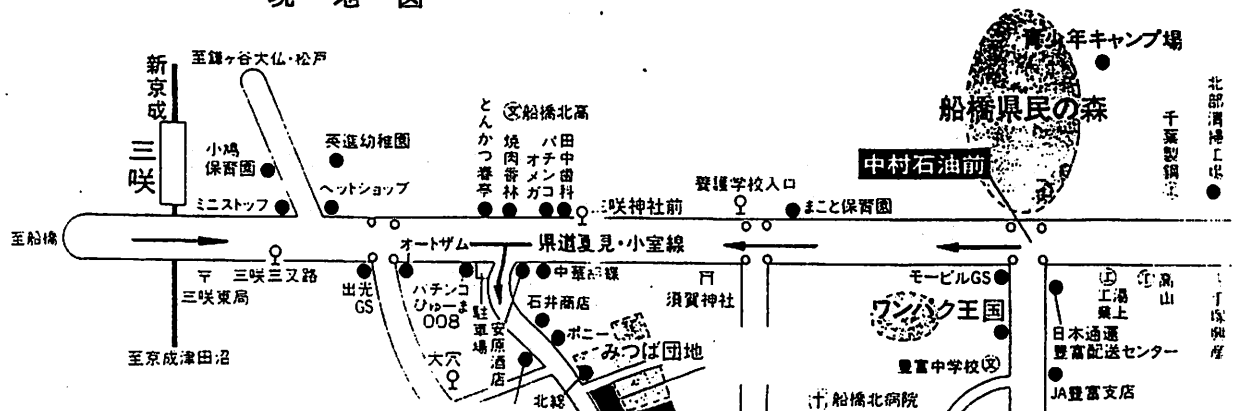
集 合：「船橋県民の森」(通称県民の森)入り口 11:00

世話人：貞元己良 ☎ 0474-74-8889 工藤泰恵 ☎ 0471-32-6853

長井芳夫 ☎ 0474-72-9700 和仁道大 ☎ 043-237-9303

行き方：新京成電車(松戸～京成津田沼)三咲駅下車、駅前バス停から「県民の森」行き、約10分で現地到着。

現 地 図



=== 1998年度の活動 ===

+++ 総会・例会案内 +++

日時：4月26日(日) 10:00～

場所：目黒区立駒場住区センター (☎03-3496-2613) 91号地図参照

東京都目黒区駒場2-22-4 (京王井の頭線「駒場東大前」下車徒歩8分)

講演と総会と懇親会

→ 世話人：平松毅久 (☎ 0492-33-8792)

㊦ 同封のハガキにて出欠の連絡を事務局平松まで。近況は通信誌上に掲載します ㊧

談話会通信 No. 93 の原稿締切は4月末日

ハガキの書き方

p.1 の続き

350-0816	川越市上戸9153
50	平松毅久 行

裏

・住所・氏名
・合同例会に (出・欠)します。
・講演(有・無) 演題
・近況

表

×××× 1998年度採集観察会 ××××

場 所：埼玉県飯能市天覧山 雨天決行！

日 程：第1回 5月17日(日)

第2回 7月12日(日)、第3回10月18日(日)、最終回1999年2月21日(日)

集 合：西武池袋線飯能駅北口階段下 午前10時(時間厳守)

10時05分発、国際興行バス(2番乗り場)乗車、「天覧山下」下車(¥160)

所要時間約15分

コース：バス停から天覧山山頂。山頂にて昼食後付近で採集観察予定。

世話人：平松毅久 (☎ 0492-33-8792)

注) 遅れて来られる方は2番乗り場で、日高方面行きと高麗川方面行きと武蔵台方面行き以外のバスにご乗車下さい。但し本数が少ないのでご注意下さい。
10時05分以降は10時25分、11時06分、同20分、同37分があります。またバスのダイヤが変更になることがあります。何卒ご了承下さい。昼食は予め用意していただいた方が無難です。

÷÷÷÷ 第11回だんわ会 ÷÷÷÷
「ゴケグモ探索会」

場 所：東京都品川区「大井埠頭」地区

予定コース：大井ふ頭中央海浜公園 → みなとが丘ふ頭公園

日 時：3月22日(日) 雨天中止(東京地方10:00時点雨の場合)
→世話人にご確認下さい

当地周辺では過去、ハイイロゴケグモ1例の採集報告があります。その他生息調査もおこなわれましたが、それ以上の報告はありません。

その他97年1月にはマダラヒメグモの生息を確認しています。

集 合：東京モノレール「大井競馬場前」駅改札口 12:00
(JR山手線「浜松町」駅乗換、二つ目)

世 話 人：笹岡文雄 (☎ 03-3918-1945)

持 ち 物：緑石、側溝蓋などを開けますので、軍手を持参してください。

お願い：特に食事の時間はとりませんので、予めお済ませの上ご参加お願いします。また当地周辺には、食堂などありませんのでご承知おきください。

東京蜘蛛談話会 1998年度合宿について 予告

東京蜘蛛談話会の1998年の夏の合宿は、埼玉県秩父市にある東京大学秩父演習林を中心とした地域で実施します。豊かな自然が残る秩父演習林へは、このような機会でないとなかなか立ち入ることができないかと思えます。奮ってご参加下さい。

日程：1998年7月25日(土)～7月27日(月) 2泊3日
宿泊地、費用等は未定です。詳細は5月発行予定の談話会通信(No.93)をご覧ください。
(担当者：宮下 直・千田高史・新海 明)

† 東京蜘蛛談話会・多足類懇談会合同例会報告 †

1997.12.7(日)10:05～16:35 目黒区立駒場住区センター

司会進行：平松毅久 (スライド：谷川明男、池田博明・VTR：平松毅久)

(1)開会の挨拶：萱嶋 泉 10:05～10:10

(2)自己紹介 10:10～11:10 (3)講演 11:10～16:30

①桑原幸夫 「埼玉県の多足類について」(スライド)

②梅林 力 「ワスレナグモの交接(2)」(スライド)

(記念撮影・休憩 12:25～13:30)

③萱嶋 泉 「ジョロウグモの小型化について」(スライド)

④谷川明男 「ジョロウグモとオオジョロウグモにおける造網場所移動の観察と比較」(スライド)

⑤新海 明 「沖縄クモ観察記(3)」(スライド)

⑥加藤輝代子 「ニャドゥティグモ *Parawixia bistriata* の生活」(VTR)

→(パラグアイ産の集団造網するクモ)

⑦小澤實樹 「クモの構図」(スライド)

⑧新海栄一 「レッドデータブックの追加種について」(レジメ)→(次頁参照)

⑨西野洋一 「コムカデ類の属検索表」(レジメ)

(4)閉会の挨拶：梅林 力 16:30～16:35

(懇親会 16:50～)

参加者：(34名・50音順敬称略)

浅間 茂、池田博明、泉 千鶴、泉 宏子、今井正巳、梅林 力、小澤實樹、小野展嗣、笠原喜久男、加藤輝代子、加藤むつみ、金野 晋、萱嶋 泉、木村知之、桑原幸夫、小峰光弘、笹岡文雄、貞元己良、佐藤幸子、新海 明、新海栄一、高橋 登、谷川明男、千田高史、西野洋一、萩野康則、萩本房枝、初芝 涼、畑守有紀、原山紀夫、伴 満、平松毅久、古浜 隆、松田久司

事務局は 平松毅久 〒350埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘202

-0816

、先取りクモ情報！

合同例会の講演より

現在、「日本の絶滅のおそれのある野生生物 無脊椎動物編」(レッドデータブック)には、危急種1種(フジホラヒメグモ)、希少種3種(キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、ミズグモ)のクモ類が記載されています。

1991年に環境庁によって編纂された本書は、6年を経て改訂作業が進められています。クモの分野では日本蜘蛛学会自然保護委員会が、新たな選定作業を行なっていました。そしてこのほどその候補種が決定し、公開の運びとなりました。

発表された種は新しいカテゴリーの数値基準をもとに選定されました。ここでは紙面の関係上、その数値基準とカテゴリーの種別とを略して掲載します。

*ハラフシグモ科	*ハウシグモ科
キムラグモ (絶滅危惧)	ドウシグモ (絶滅危惧)
*カネコトタテグモ科	*ミズグモ科
カネコトタテグモ (準絶滅危惧)	ミズグモ (絶滅危惧)
エゾトタテグモ (準絶滅危惧)	*ウシオグモ科
*トタテグモ科	ヤマトウシオグモ (絶滅危惧)
キシノウエトタテグモ (準絶滅危惧)	*コモリグモ科
キノボリトタテグモ (準絶滅危惧)	アシマダラコモリグモ (準絶滅危惧)
*ジグモ科	イソコモリグモ (絶滅危惧)
ワスレナグモ (準絶滅危惧)	*ワシグモ科
*カヤシマグモ科	エダイボグモ (絶滅危惧)
ハラナガカヤシマグモ (絶滅危惧)	*イヨグモ科
*ヤマシログモ科	イヨグモ (絶滅危惧)
ヤマシログモ (絶滅危惧)	*ヒトエグモ科
*ホラヒメグモ科	ヒトエグモ (絶滅危惧)
フジホラヒメグモ (絶滅危惧)	*カニグモ科
*コガネグモ科	ダイセツカニグモ (絶滅危惧)
マツダタカネオニグモ (絶滅危惧)	
ヤマトジャノメグモ (絶滅危惧)	
オオスミコガネグモ (絶滅危惧)	

以上21種

上記の種以外にも絶滅の危機にあるクモは、多数あると考えられています。しかし多くの種で、データ不足によりリスト化されませんでした。そこでこの候補種以外に、さらに選定作業が進められ、「日本の重要なクモ類Ⅱ」として後日発表される予定です。

(編)

「通信」原稿は 笹岡文雄へ 〒170東京都豊島区北大塚3-12-21

-0004

*近況つれづれ・関東勢 + お一人 (合同例会出欠ハガキからの転載・一部編集)

東京都

*小野展嗣(新宿区)

秋、1ヵ月間ベトナムに調査のために出張しました。目的はキムラグモ類でしたが、この属の南限となる場所で採集することができました。ふたの直径4mmのでかい奴です。

*梅林 力(杉並区)

少しおちついて、始めました。久しぶりに講演(というほどのものではないですが)することができます。メデタシメデタシ。でも季節が…寒くなってきて、みなクモガクレしてしまうので残念です。そのうち、もう少しはっきりしたものが報告できればと思っています。

*小澤賢樹(世田谷区)

沖縄合宿の余韻がつづいています。

*藤井靖浩(千代田区)

八木沼先生以来、浜田竜一さん、大熊千代子さん、錦三郎さん、そして近藤昭夫さんと、親しくさせていただいた先輩の方々の訃報が相次ぎ、大きな衝撃を受けています。これを今後の研究のバネにせねばとの意を新たにしています。

*萱嶋 泉(日野市)

ミズグモの野外観察をつづけています。全く困難な仕事です。でも結果の出るまで頑張ります。

千葉県

◎貞元己良(船橋市)

子育てが忙しく、最近では、野外へ出ることがほとんどありません。子供は、上が3歳、下が1歳がおります。あと5年は、自由がきかないかな~と思うこの頃です。

埼玉県

◇笠原喜久男

夏の合宿では、突然「尿管結石」と診断され、皆さんに大変ご迷惑をおかけしたり、また大変お世話になりました。その後精密検査を2回ほど受けただけで、治療らしいことは特別やっておりませんでした。11月中旬、尿石は尿とともに自然に体外へ排出されました。皆さんから温かいおことばをいただきましたこと、更めて厚くお礼申し上げます。

〒215

KISHIDAIA 担当は 木村知之 0012神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12
原稿送付は 池田博明へ 〒258神奈川県足柄上郡大井町金手1099

--0018

神奈川県

▼佐藤幸子（横浜市）

今年は寒暖の差がはげしかったセイで老の体調ががすっきりくずれてしまいました。今年の冬はどうかと、今から心配しています。クモと言ひ、気温と言ひ、沖縄に住みたいです。

▼萩本房枝（横浜市）

クモのほうは旅行に行ったときハイキングをしながら採集をしています。変わったクモが見つかったらその時はお知らせします。

▼吉澤美香（横浜市）

生き物好きの素人です。毎日娘（6ヵ月）を散歩に連れ出して入るため、動植物との交流はわりとあります。先日初めてフルサイズのオニグモを見ました。宙にクリが浮かんでいるかと思いました。5月には寝室でカキイロハエトリというクモに会いました。

▼新村 誠（川崎市）

今年は沖縄のクモをゆっくりと教えて頂けたのが最大の収穫でした。でも身近なクモ達がちっとも覚えられなくて、進歩していないのが悩みです。

▼今井正巳（相模原市）

皆様からクモについていろいろ教えてもらって、1つでも多くのクモを学ぼうとしているところです。

熊本県

※木庭 奏（山鹿市）

今年は3年振りに我家の庭で、ヌサオニグモ♀を見ました。また、スズミグモ♀、ジョロウグモ♀の未成熟蛛がやって来ました。何れの蜘蛛も2日～4日で、どこかへ移動していました。以前のように、ずっと定棲？してくれればと願いますが、相手が動物ですからね。

他の町村から、ジョロウグモが減って、以前より見なくなったということです。これらは山手ですので、そんなところまで環境が変わりつつあるのかなと思いました。一度探しに行ってみようと思っています。九州は、相変わらず汗ばむ程陽気が続き干ばつです。

*出欠席のハガキをいただいた方々（50音順敬称略）

出席：泉 宏子、加藤輝代子、新海 明、谷川明男、和仁道大（5名）

欠席：鶴崎展巨、東條 清、水野陽介（3名）

会計は 安田明雄 〒231神奈川県横浜市中区元町5-219

-0861

沖縄名護合宿のこと（玉里吉健さんの思い出）

新海 明

1997年10月19日。この日は船橋県民の森で今年度の第3回目の採集会が開かれた。久しぶりに会う方々に、大阪の加村さんから預かった沖縄合宿の記念写真を渡し、楽しかった合宿の思い出をひととき皆と語り合った。その後、いつものように津田沼駅前の飲み屋で打ち上げをして、珍しく22時前に立川の自宅に戻った。暗い部屋に留守電の赤い光が点滅していた。名護市役所の仲本さん（合宿時にバスの運転手をして下さった方）からのものであった。「びっくりなさらないで下さい」というメッセージに私の心は凍りついた。心のどこか片隅に覚悟していたのだが……。それは、玉里吉健さんの訃報を伝えるものだった。会員でもない玉さんのことをここに書くことをお許し願いたい。なぜなら、玉さんこそ今年の談話会夏合宿の最大の功労者なのだから。玉さんなくして名護での合宿は実施できなかった。玉さんは名護市役所の総務課長だった。忙しい方だった。去年の伊差川での誘拐事件や普天間の米軍基地の移転問題など、この一年名護市は日本中の耳目を集中させる出来事が頻発していたのだ。

初めて「おかめ」のカウンターで出会った玉さんは、まさに豪放磊落、親分肌の人だった。でも同時に繊細な方でもあった。「おかめ」の看板まで飲み、その後名護の繁華街「みどり街」へ行き何軒もの飲み屋を梯子したものだ。沖縄の夜は遅いとよく聞いたが、それを初めて実感させてくれたのも玉さんだった。夏にしか店を開けないという「海岸通り」にも案内してくれた。真っ暗な波の上に広がる夜空に浮かぶ南の星たちの輝きを私は忘れない。ここで、名護まつりの花火を見ようと約束したのに……。玉さんのお子さんの話もよく聞いた。屋上で飼っていたボウフラ。「ぼくはクモが嫌いです」で始まる夏休みの「クモ」の自由研究の作品のこと。笑いながら語るやさしい父親の顔を何度も垣間見せてもくれた。僅か一年半余りの付き合いしかなかったが、忘れ得ぬ人だった。合宿の実施にあたっては病院から、片時も離さなかったという携帯電話でさまざまな指示を出して下さっていたようだ。何もかもとどこおりなく、そして、職員の方たちは本当に気持ち良くなんでもやって下さった。

談話会の会員で玉さんを知っているのは、宮下、千田、大川、池田、谷川さんくらいだろう。合宿の折りに参加者一同に是非会って挨拶をしてもらいたかった。みんなの中で笑う玉さんの姿が目の前に浮かぶ。こうなるはずだったのに……。と。「おかめ」のハハや洋ちゃんと名護クモ談話会を作ろうと言い合っていたじゃないですか。余りに早く若すぎる死に、ただ茫然としています。この世のたったひとつの真実は「誰もみな死ぬ」ことだと、常々わかっていい聞かせていたのに、なお心に残る虚しさは如何ともできません。時間だけが解決してくれるのでしょうか。それにしても、運命はあまりに残酷すぎます。

すべて叶わぬ夢と諦めるしかないのですね。心からのご冥福をお祈りします。

近藤昭夫さん追悼

昨年1997年7月22日、当会会員でもいらした東邦大学理学部教授・理学博士、近藤昭夫さんがお亡くなりになりました。近藤さんはクモ学の分野では、数少ない発生学をご専攻された方でした。昭和11年生まれで東邦大、東京教育大大学院を経て、1970年東邦大に奉職され、1996年より現職。日本蜘蛛学会評議員のお一人でもありました。

教えられた方々は各方面に多数いらっしゃいます。特に当会の会員で近藤さんから直接お教えを受けられたお三方から、追悼文をいただきました。謹んでここに掲載させていただき、併せてご冥福をお祈りしたいと思います。

(編)

許されなかった最後のお別れ

板倉 泰弘

7月26日土曜日の午後2時半頃、子供におやつをやっていた私は1本の電話を受け取りました。電話は近藤先生の奥様からで、22日に先生が亡くなられたとのこと。お元気であるとばかり思い、亡くなる数日前にお中元のソウメンを宅配便でお届けしていた私は、あまりの突然なことに、涙を流して電話口で立ちつくしていました。半年前に頂いたお手紙では、ご病気である様子でもなかったが……。

先生の思い出が次々に臉の裏によみがえりました。毎晩遅くまで学生のノートをチェックされている姿。会議や講義の多忙な中でも常に笑顔を保ち、院生や特研生に細やかな気配りをされ包み込んで下さったこと。クモ採集で山形へ行かれても、必ずお土産を買ってきて下さったこと。失敗しても、怒らず言い分を聞いて下さり、丁寧にアドバイスを下さる「最高の教師」といえる人でした。特に、人間関係で悩み、うつ状態に陥って研究室へ行きにくくなった私を励まし救って下さったことは一生忘れられません。

告別式も終わっていたので、取り急ぎ、御霊前を送らせて頂くとともに、私が発生学研究室にいた頃の4年生の学生のうち、訃報を受け取っていないであろう人たちや、事務局をしている中部蜘蛛懇談会や三重クモ談話会の先生をご存じの方々にお知らせしました。

私は先生に一方ならぬご恩を受け、ご心慮ばかりおかけしました。何のご恩返しもできぬまま亡くなられ、最後のお別れも許されなかったことが申し訳なく、残念でなりません。私も病気・就職・結婚・転職・長女の誕生・転居などが一段落してようやく、クモの方を再開できるようになりました。先生の教えを胸に、クモを続けて生きていこうと思っています。

近藤先生、ありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

学部の3年くらいまでは、うんと生態の志向が強かった。それが卒論のために研究室を選ぶ頃、分類や系統の志向がまさるようになった。東邦大学には動物の分類や系統を専門とする研究室はなかったのだけど、近藤先生はクモかアリならそういう仕事でもいいよ、と仰って下さった。必ずしも特定の分類群にこだわる理由を持たなかった僕が、クモの世界に足を踏み入れた、それがきっかけだった。

クモの研究をするようになって、ずいぶん多くの人々に出会い、また得難いことに、ご指導をいただけるようになった。そうして卒論を書き終えた僕は、東邦大の発生研を飛び出してしまう、近藤先生にお目にかかる機会も少なくなってしまった。それでも去年の国分寺でのクモ学会の大会では、発表を聞いていただき、休憩時間などにも、発表では触れなかったことなど、お話をさせていただいた。

近藤先生はタバコがお好きであったから、また僕も今のところ喫煙者であるので、休憩時間ともなれば、いつも吸殻入れのあるところで、ご一緒するのだった。先生はニコニコと、聞いて下さった。そういえば、卒論を書いていた頃も、研究室のすぐ外のベランダの柵につるしてあった、先生のお手製の吸殻入れの傍らで、しばしばともに紫煙をくゆらせたものだった。

もちろん僕などは発展途上の人間であるので、クモの研究はとてもこれからなんとか格好がついて来ようかというところだ。しかしその話を吸殻入れの傍らで聞いていただくことは、おそらくそれがご恩返しに出来る数少ないことであるのに、もう出来なくなってしまった。先生は天国で、今もニコニコと、タバコをくゆらせているのだろうか。

生山 健

11月某日、東邦大学へ行きました。先生の遺品の中から、私が学生時代に撮影した写真のネガをお借りすることが目的でした。学校へ行く間も先生がいらないという実感はありませんでした。走り慣れた道を通り、見慣れたキャンパス、見慣れた理学部第1号館へ入りました。発生研の前まで来ても全く違和感を感じませんでした。扉をノックしたら近藤先生の返事が聞こえてくるような気がしました。同じ研究室の谷本先生にお願いして部屋に入らせていただきました。様々なサイズの段ボールが部屋狭しと並んでおり、そのあまりの生活臭のなさに触れ、初めて近藤先生はもういないのだと実感し、こみ上げてくる物を感じました。

私が初めて近藤先生に接したのは組織学の授業でした。その後も発生学、組織学実習、臨海実習と先生に接する機会がありました。卒研を選ぶ段階で蜘蛛の糸に興味を持った私は先生の研究室の門をたたき、以後卒研、研究生、修士と4年間お世話になりました。その間実習の助手も幾度か経験させていただきました。先生は講義が好きな方でした。授業や実習は様々な参考になる事例や体験談を交えた面白くかつわかりやすい物でした。毎週の講義で学生のノートをチェックするなどその熱心さには感心させられました。逆に、会議嫌いでもいつも逃れる理由を探していらっしゃったのがおかしかったです。人間味あふれていて本当に良い先生でした。

周囲の私たちがいくら風邪をひいて苦しんでいても、いつも元気いっぱいでした。私が最後にお目にかかった昨年の教授昇進祝賀会でもすごく元気な姿を拝見しましたし、春先にお電話したときもとても元気そうに新しく買う顕微鏡と写真撮影装置の話をしていらっしゃいました。それだけに今回の突然の訃報はすぐには信じられませんでした。

先生には何もご恩返しができないうちにお別れになってしまいました。先生からお受けした数々のご恩は立派な社会人となることでお返ししたいと思います。

「東京クモゼミの軌跡」のご紹介

新海 明さん、宮下 直さん、池田博明さん、加藤輝代子さんが中心となり、東京近辺のクモ研究者やクモ好きが月に1回ゼミを行っています。これを東京クモゼミと呼んでいます。文献紹介や参加者自身の研究報告が主な内容です。ゼミでの発表の内容、それに対するコメントや議論などは、池田博明さんによって要約され、プリントとして参加者に配布されています。このプリントが今年100号になったのをきっかけとして、第1号から100号までを一冊にまとめました。そしてこの合本を東京クモゼミの軌跡と名づけました。

1982年から1997年にかけての12年間に行われたゼミの記録です。B5コピー用紙にレーザープリンター打ち出し、239ページ。プラスチックパイプによる簡易綴じ。テキストファイル(FD)付き、送料込みで1800円とさせていただきます。制作に手間がかかりますので受注生産とさせていただきます。

ご希望の方は谷川明男までご連絡下さい。

郵便：2480025 鎌倉市七里ガ浜東 2-3-1 県立七里ガ浜高等学校 谷川明男

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

1997年度談話会通信（No. 90～92）に投稿、掲載させて頂いた方々

（不同順：敬称略）

★原稿

平松毅久、石渡大輔、坂田大輔、三川英之、新海 明、中島晴子、安田明雄、泉宏子、
工藤泰恵、笹岡文雄、野崎文江、板倉泰弘、千田高史、生山 健

☆（近況ハガキ）

加村隆英、畑守有紀、山本一幸、中平 清、木庭 奏、石野田辰夫、吉田 哉、
牧 孝匡、笠原喜久男、西尾三枝子、和仁道大、野崎文江、長島 充、石川みどり、
梅林 力、小澤實樹、利岡 匠、新開 孝、中島祥吉、佐藤幸子、谷川明男、新村 誠
小野展嗣 藤井靖浩、萱嶋 泉、貞元己良、萩本房枝、吉澤美香、今井正巳

★切り抜き

梅林 力、笹岡文雄、前川隆敏、石野田辰夫、小野展嗣、近藤昭夫

原稿は投稿いただいた全てを、掲載させて頂きました。また切り抜きは紙面の都合で、
提供分の全てを掲載しておりません。さらに過年度提供分を含みます。

なお採集観察会報告及び合宿予告、会計関係記事、事務局だよりは会の公式な告知にか
かるため、投稿とは致しませんでした。

多数の方々から投稿、切り抜きの提供を頂き、お礼申し上げます。ありがとうございました。
来年度もよろしくお願い申し上げます。

（通信編集担当：笹岡）

談話会通信91号遅延のお詫び

談話会通信の重要な役割のひとつが、会員のみな様に会の催しなどの告知を行なうこと
です。91号は1997年の9月末日の発行予定でした。それがこの時は見通しの甘さか
ら、大幅に発送が遅延してしまいました。特に91号は採集観察会のお知らせが掲載され
ており、その当日までにお届けすることができませんでした。告知の役割を果たすことが
できず、会員のみな様また採集観察会の世話人の方々には大変ご迷惑をおかけしてしまい
深くお詫び申し上げます。今後は談話会通信の発行には、より一層留意いたしますので何
とぞお許してください。

通信編集担当：笹岡文雄

会費は単年度で

一般¥2,800

学生¥2,000

会費納入状況 (1997年12月28日現在, 敬称略)

1994年度まで納入済み 東 千都子

1995年度まで納入済み 伊藤 研, 笠原須磨生, 宮下 直, 寺西玉実, 緒方 和, 上原 健, 西条雄介, 川崎慎二, 中島祥吉, 濱田勲子

1996年度まで納入済み 阿部代始子, 関口晃一, 吉田 真, 宮園あがさ, 宮園真理子, 桑川和子, 後藤好正, 国見裕久, 佐藤理子, 斎藤 博, 小池牧子, 小林健一, 須賀瑛文
菅波洋平, 西川喜朗, 大塩一郎, 大野正男, 朝倉幹晴, 田中一裕, 萩本房枝, 八幡明彦
福島彬人, 本木洋子, 野嶋宏一, 鈴木勝浩

1997年度まで納入済み 芦田喜治, 安田明雄, 稲葉茂代, 永井 均, 永田勝利, 横山和正, 加村隆英, 加藤ななえ, 加藤むつみ, 河又和夫, 貝兎憲治, 柿沼智子, 笠原喜久雄, 萱嶋志門, 萱嶋 泉, 荻部幸世, 吉倉 眞, 吉田 哉, 吉田嗣郎, 吉澤美香, 及川照代, 宮下和喜, 宮崎和代, 宮島 仁, 宮本美織, 桑江 司, 古川 涉, 工藤泰恵, 荒金泰子, 高橋 登, 高津佳史, 高田 勝, 今井正巳, 佐久間良三, 佐々木勝實, 佐々木智雄
佐藤和昭, 細田みどり, 山川 守, 山田三重子, 秋元 昇, 秋山亜由子, 初芝伸吾, 小笠原幸恵, 小川敦央, 松田浩二, 織茂尚子, 新海栄一, 新村 誠, 森 要, 諏訪哲夫, 水野陽介, 生山 健, 西尾三枝子, 赤羽尚夫, 千田高史, 浅間 茂, 前川隆敏, 早乙女 薫, 増原啓一, 増田 進, 大久保光将, 大川秀治, 大利昌久, 谷川明男, 池田千洋, 池田 泉, 池田博明, 竹内 慎, 中平 清, 中野隆雄, 長井芳夫, 長田佐智子, 長島忠義, 鶴崎展巨, 貞元己良, 田中徳久, 田副幸子, 唐沢良子, 鍋田修身, 日下部光代, 梅田泰圭, 畑守有紀, 伴 満, 板倉康弘, 浜岡史子, 浜口哲一, 浜村徹三, 福田英克, 福本伸男, 米田 宏, 北島 博, 牧 孝匡, 木村正吾, 木村正明, 木村知之, 野戸 章, 野崎文江, 利岡 匠, 立川晴二, 林 俊夫, 林 聡彦, 鈴木成生, 和仁道大

1998年度まで納入済み 安藤昭久, 井原 庸, 井上尚武, 井野文雄, 磯部達男, 稲垣成二, 榎田重雄, 古沢笑子, 古内栄一, 古浜 隆, 高橋米夫, 佐々木健志, 佐々木祐子, 坂寄 廣, 笹岡文雄, 山本一幸, 山本一博, 緒方清人, 小澤實樹, 松田まゆみ, 新開 孝, 石川みどり, 石野田辰夫, 川崎拓兵, 泉 宏子, 大河内哲二, 大石洋人, 田中穂積, 嶋田順一, 藤井靖浩, 徳本 洋, 入江照雄, 梅林 力, 木藤幸雄, 有田立身, 蓮沼克己
浪波徳義

1999年度まで納入済み 引田和明, 塩崎哲哉, 下謝名松榮, 加藤輝代子, 海老原憲昭, 久保田克哉, 甲守 崇, 守 桂子, 小川光昭, 小峰光弘, 松本誠治, 新井弥生, 中島晴子, 長島 充, 東條 清, 鵜田忠雄, 木庭 奏

2000年度まで納入済み 小野展嗣, 平松毅久

2001年度まで納入済み 菊屋奈良義, 佐藤幸子, 新海 明

2002年度まで納入済み 棚沢 新

2005年度まで納入済み 熊田憲一, 布施佳子

2006年度まで納入済み 原 勝司

不明な点は, 会計安田明雄までお問い合わせ下さい。 (tel 045-641-0763)

亡き女性研究家収集の2万点

国内有数
「クモ」コレクション

北九州市の博物館に

整理代500万円添え
遺族が寄贈

が、種クモ「セアカゴケク
王」が大阪で発見された騒
ぎ。セアカゴケクモの園内
唯一の標本を所有していた
関係で、各地の生虫調査に
立ち会つた多忙を極め
た。

騒ぎも一段落し、大熊さ
んは研究生活に戻つたが、
体調を崩して昨年十月に死
去。福岡市城南区に住む遺
族が整理作業のための費用

五百
館に
標
だつ
クモ
内だ
園



北九州市自然史博物館の収蔵庫に収められた故大熊千代子さん（右下円内）のクモの標本コレクション

小野展嗣さん提供
西日本新聞
'97.7.2

池田博明さん提供
読売新聞
'97.12.6

「クモの巢」
「原因で火事」

ふる釜バーナー内に張る

ふろ釜のバーナー内に張二、三時のバーナーのうち一本にクモの巣が張つてあり、クモの死がいも見つかった。こうしたことからノズルから噴出したガスが

この火事は、先月五日午後七時ごろ、東京都板橋区の会社員（三）方で、（三）がふろを沸かそうと外式ガスふろ釜に点火したところ、約五分後に「パン、パチン」という音とともに、屋外の釜から煙ががり出したというもの。

一

一九五五年十月には、台所のガスステープル内のクセの奥が原因で火災が発生したこともあるが、どう釜の火災は記録がない。



大熊さんが収集したア
シナガグモの標本

専門家。新種発見だけでなく、研究者の標本照会に応じるなどの作業を通じて多くの専門家の研究を支えてきた。コレクションは今後の研究者にとって「基準標本」として極めて貴重な「たえろ」。

たえる。

群ぐモ騒助のこゑ「クモ

は、外見は不気味ても益

生で 竹園まきふしし
関心が高まり、正しく理

解されるきつかけになれ

「ば」と話していた大熊が

ん。遺志を生かすため同地

館予定の新博物館で、コレ

クシヨンの常設展示も構想

してゐる。

梅林 力さん提供
朝日新聞
'97. 7. 12

科学

「クモの糸」は
2匹分まで安全

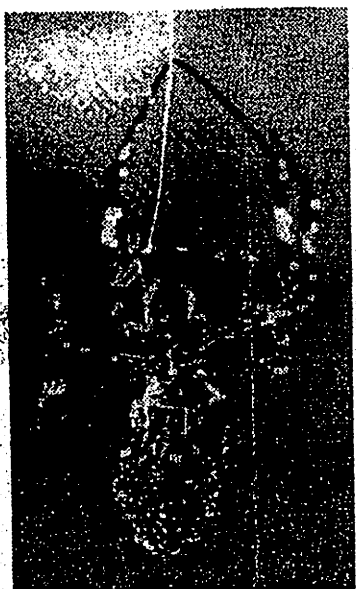
島根大教授ら確認

の体重で異なり、体重の約二倍の荷重までが安全領域になっていることを島根大教育学部の大崎茂芳・教授らが確かめた。

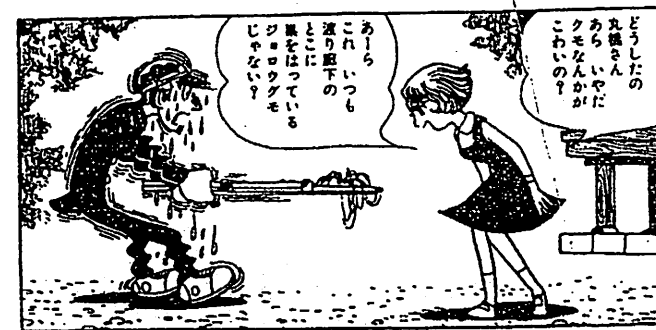
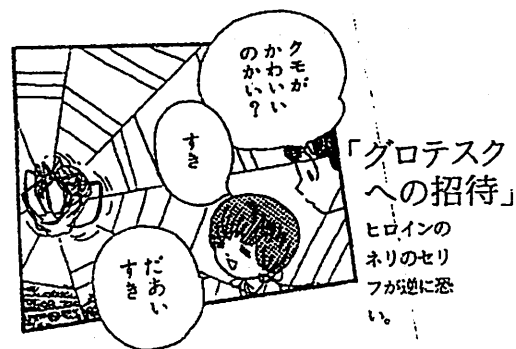
大崎さんらは、体重が約〇・一ギから約〇・八ギまでのシヨロウグモが出すけん引糸を集めた。色々な荷重をかけて引っ張ったときに、「クモの糸」は2匹分まで安全

島根大教授ら確認

のちの二つから出される。よく見ると、二本本の糸からできていて、一本が自分の体重分を支える強度を持ち、二本あわけて安全性を保っている。成長に伴って管が太く



けん引糸を頼りに垂れ下がるジモ、グモ（大崎茂芳・島根大教授提供）



「ジャングル魔境」(下)

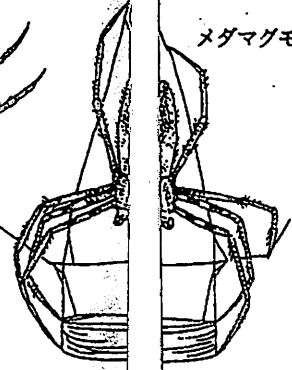
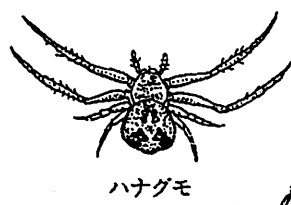


「どろんこ先生」(下)

明るい... なる... いった... れる。



昆虫少年であった手塚...
ペンネームもその頃にか...
して彼の作品には描かれ...
くさんの虫たちがそれら...
った。本書はそれらの採...
膨大なる著作から、身は...
である。手塚自身は、か...
たのは本当のクモのイメ...
紹介されるクモではない...
品のばかりではない。著...
も。著者は虫プロのアニ...
著者は虫プロのアニメ...
で、手塚の絵のコメント...
トも担当。



小林準治のイラスト

昆虫図鑑

手塚治虫
小林準治



東京 講談社 1992
245 p. ; 20 cm.

¥1,400 + 税

(表紙)

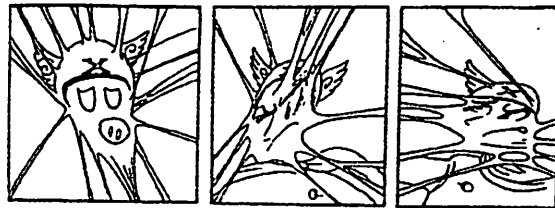
故・近藤昭夫さん提供

付録3へ続く

'97年に亡くなられた近藤昭夫さんより、生前にいただいた原稿です。表紙も入れてB5で7枚分あった関係で、掲載が延びてしまっていました。遅きに失してしまい、今となってはお詫びもできなくなりました。つつしんで冥福をお祈りして、紹介させていただきます。(編)

エックス
「ビッグX」

これは大変オー
バーに描いてい
るが、クモの糸
のネバつきがよく
出ている。



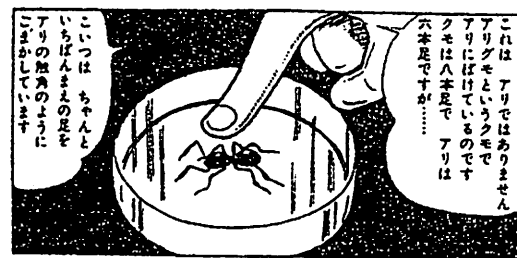
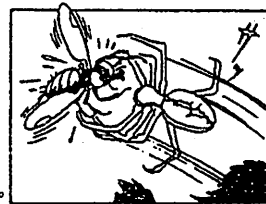
「サンダー
マスク」

クモの苦手な作者、手
塚治虫がクモにやられ
ている図。



「勇者ダン」(上) 「ブッダ」(右)

巨大ミズグモに襲われる。 クサグモがハエを狩る
のは、こんな感じだろう。



「バンパイヤ
—第2部—

アリグモの擬態
の説明。クモは
昆虫ではないが、
昆虫の真似をす
るという例であ
る。

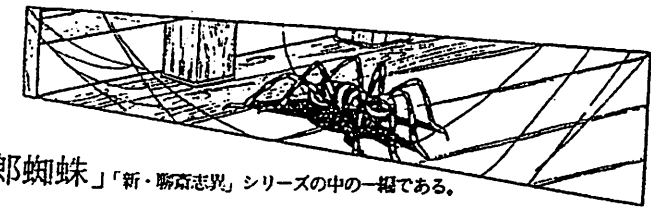
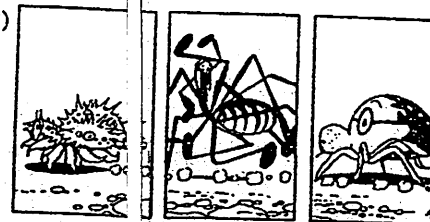
「ユフラテの樹」



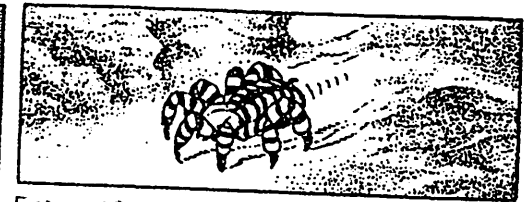
「人間昆虫記」(上)

「くも屋敷の鍵穴」(右)

手塚治虫の顔をしたク
モがゆかいてある。



「女郎蜘蛛」 「新・新志界」シリーズの中の一編である。



「サンダーマスク」(左) 「黄色魔境」(右)



「ジャムボ」(上) 「ブッダ」(下)



付録2の続き
「手塚治虫昆虫図鑑」
より

庭にきた虫

佐藤信治

人間選書

206

農文協

ア999

第6話 シヨロウグモ

わがクモ屋敷の女王 128

なぜ、自分の糸にはくっつかないの？

産卵グモの発見、産卵場所の追跡 134

卵塊はイチゴミルク、目の覚めるドラマ

一つの卵塊中に一二〇〇個の卵 142

同居を結び、脱皮を重ねて成長、交尾 146

129

137

No.	中心高さ	巣中心と卵塊の距離	卵塊の高さ	産卵本
1	2290mm	900mm	1400mm	シキミ属
2	2900	1100	2900	スギ
3	2200	1250	1300	シイの葉
4	1500	1550	900	ササの葉
5	1800	3450	850	ツバキの葉
6	1600	1900	600	ササの葉
7	2600	1800	900	ヤツデの葉
8	1400	1900	750	アオキの葉
9	1500	1600	1700	ナナカマドの幹
10	2100	1700	800	ササの葉
11	1400	900	1500	アジサイの葉
12	2500	1350	1250	シイの葉
13	1300	600	850	ツバキの葉
14	1500	2150	1470	ツバキの葉
15	3070	1400	1990	モクセイの葉

表6-1 巣の位置と産卵場所

から移動開始するのを待った。そしてある日、クモのいなくなつた巣に気づいて、足どりの追跡をはじめた。
クモの巣はシヨロウグモに限らず光のあつた時や、霧雨に濡れた時に糸の一本一本がよくみえる。それにヒントをえて、昼は霧吹きを使い、夜は懐中電灯で照らして、クモの移動先を探した。
移動をはじめたその日のうちに産卵場所を決めてしまふ時もあるが、翌日になつても転々と移る流浪派もいて、この追跡は予想以上に根気のいるものだった。
移動経路は、糸を流してこれに伝わって歩く関係から、その時々気流によって変わるのだろうか。個体によって、まちまちである。
結局この年は一例、翌年また四例の移動経路を確認した。その計一五件の巣中心からの産卵場所の距離、高さおよび産卵した木の種類を表6-1と図6-1にまとめ

た。
これによると、産卵位置が巣の中心より高いのは二例のみ、人の背丈より高かつたものも二例で、約半数は一メートル以下の高さであった。また、葉に産卵した二三例のうち、落葉樹は一例のみである。これは偶然なのか、

それともシヨロウグモが常緑樹と落葉樹とを識別した結果なのかは判断できない。

シヨロウグモの巣のスパンは六〇センチから九〇センチくらいあるから、巣中心から卵塊までの距離が六〇〇、九〇〇ミリという三例のように巣からきわめて近いところの産卵もあり、反対に約三・五メートルとえらく離れた例もあったが、おそらくほかの木を中継してからゆきついたものだろう。とにかく一・二メートルの範囲が最も多い。

産卵は巣を離れてから、早くて翌日、遅いもので三四日してからで、昼夜のべつなくはじまるが、休日でない限りトオルもオヤジも昼間の産卵には立ちあうわけにいかないの、何回もチャンス逃した。

卵塊はイチゴミルク、目の覚めるドラマ

そして一月はじめ、勤めから午後八時過ぎにもどつた私は、家に入らずにそのまま庭にまわつて、朝のうちにすでに産卵のため樹の葉に滞留しているのを確認して

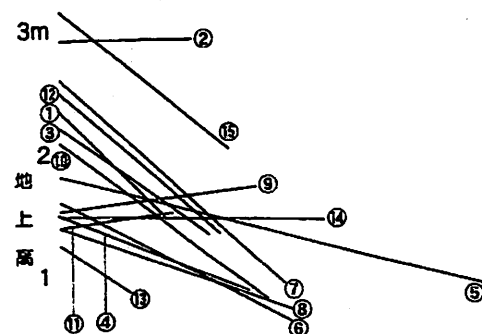
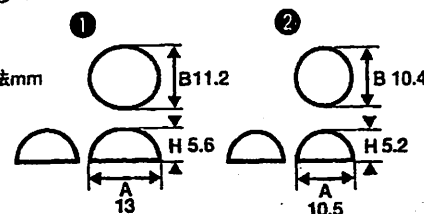


図6-1 巣中心と産卵位置

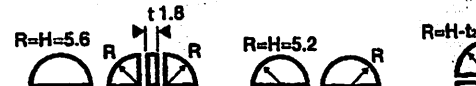
卵塊までの水平距離 0 1 2 3m

卵 直径 $d=0.8\text{mm}$ 体積 $v=\pi d^3/6=0.268\text{mm}^3$

卵塊 形状寸法mm



計算モデル 1/4球×2+半円板 半球 1/4球×2



体積 V $\frac{2}{3}\pi R^3 + \frac{1}{2}\pi R^2 t$ $\frac{2}{3}\pi R^3$ $\frac{2}{3}\pi R^3 +$

V値 mm^3 456.4 294.5 882.3

卵の数 $N=0.4V/v$ 681 440 1316

図6-2 卵塊中の卵数の推定

golden silk spider.....136

